



第10回 白川静漢字教育賞 受賞作品リーフレット

—特色ある漢字教育実践や漢字に親しむ小・中学生の作品を表彰—

福井県・福井県教育委員会
令和5年度

※表紙掲載作品は、第10回白川静漢字教育賞【小・中学生の部】優秀賞受賞作品、及び第一次選考通過作品です。

白川静漢字教育賞【第10回】



絵でおぼえる漢字

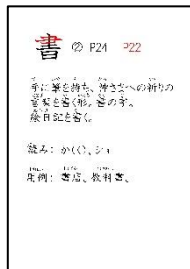
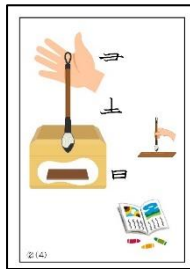
京都府 漢字つながり研究所
高橋 信夫 氏

1 実践の概要



漢字は部品の組み合わせでできている。また、それらは絵で表すことができる。例えば「喜」の字は、太鼓を打ち鳴らして神さまを喜ばすことを表した字であり、絵で表現すると左図のようになる。同じように「樹」の字は太鼓を打ち鳴らしての植樹祭を表した字であり、植樹は大切なことで何千年も前から行っていたことを記録している。また、豆・頭・樹・登・短・・・などは豆の字でつながっているとも言える。現在「喜」の字を書くなどするとき「豆」の字をほとんどの方は意識されていないのではないか。漢字を部品の組み合わせとして絵で表現したことで、その記憶は一生ものになるのではないか、また、このたび図らずも白川静博士の世界を映像化できたのではないかと考えている。

2 実践の内容



- 1) 無料出前講座の実施（公共施設等にて）
漢字カルタ大会の開催
「絵でおぼえる漢字カルタ」で遊ぼう
(小学校各学年18字 全108字の漢字カルタ)
 - ① 漢字は部品の組み合わせでできていること
 - ② 漢字はその部品でつながっていることを体感して頂くことを願っている。



2) 「漢字のつながり辞典」の制作

- ・「漢字つながり辞典 web 版」の公開

QR コードはこちら→



- ・書籍の出版など

「漢字つながり辞典」小学1年生～6年生（紙書籍 A5 版）

「漢字つながり講座」小学1年生～6年生（動画）

（いずれも、漢字つながり研究所刊）

3 実践の成果

漢字を絵の組み合わせで表現できたことで、

- ① 未就学を含む幼年期は高い画像認識能力を持っている。この時期に漢字 1026 字を絵の組み合わせとして覚えることはそれほど難しいことではないと感じている。
- ② 特別支援学級の生徒さんなどにも有効な教材になり得るのではないかと。現在、試行を始めている。
- ③ 白川静博士の研究が結実して一般の私達が目にするできるようになったのは、つい20年ほど前（『常用字解』初版 2003 年）のことで、今後の更なる普及を願うばかりである。私は老若男女問わず白川静文字学を伝える活動を進めていく。

■講評

（津崎 史氏）

学習端末で学べる「漢字つながり辞典」は、白川静の字書に忠実に作られた。小学校で学ぶ 1,026 字について、イラストや映像で、わかりやすく見える化したもの。Web 版と紙書籍を作成。設計技術者、IT 技術者としての受賞者の力量が発揮された力作である。漢字をパーツの組み合わせとして、そのつながりを重視する発想は、明快で、楽しく学べる教材となるだろう。すでに小学校などへの出前授業で使用されているが、更なる活動の場の拡がりを期待したい。



学習端末を活用した漢字指導の工夫 ～自主開発教材「漢字 Jamboard」 による支援の取組～

新潟県 上越教育大学特任准教授
栗林 育雄 氏

1 実践の概要

GIGA スクール構想により1人1台の学習端末が配備されたが、その活用に苦慮している教職員も多い。そこで、本来はホワイトボード形式で考えを共有するツールであるGoogle Jamboardの付箋機能を活用し、漢字ワークを開発した。名付けて「漢字 Jamboard」である。作成したデータのアドレスを共有することで、どの学校でもすぐに使用することが可能である。各校で活用してもらい、その効果を検証した。

2 実践の内容と成果

(1) 個別最適な学びをサポート

「イラストと漢字を組み合わせる」「熟語をしりとりのようにつなげる」「画数順に並べる」「部首とつくりを組み合わせる」など、様々なワークを作成した。各学年20シート、計120のワークで小学校配当漢字1026字を網羅した。付箋を指で動かすだけなので、どの児童も意欲的に取り組む姿が見られた。特に漢字学習に抵抗のある児童に有効であるという意見が多く寄せられた。

(2) 個の学びから集団の学びへ

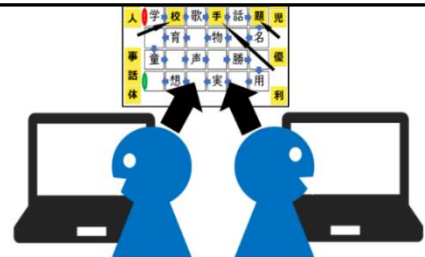
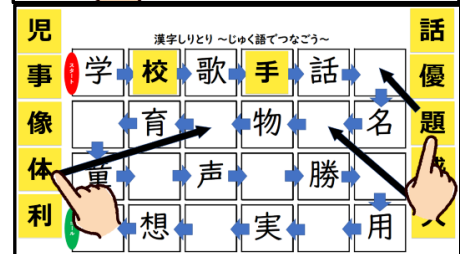
Jamboardは、自席から移動することなく、他者と共同編集することができる。この機能を活用してグループ活動にすることにより、漢字の苦手な児童も協力しながら安心して取り組むことができた。また、対戦型のワークに取り組む中で「もっと漢字を知りたい」という学習意欲を高めた児童も見られた。

(3) 問題づくりによる主体的な学びへ

テンプレートを用意すれば、児童も漢字の問題を作成することが可能である。Jamboardを活用すれば、児童が作った問題をその場で級友と共有することができる。「〇さんの作った問題、よかったよ」と称賛されることで、自己肯定感と漢字学習への意欲を高めた児童もいた。また、家庭学習で問題を考えてくるなど、主体的な学びにつながった児童も見られた。

(4) 「どう指導したらよいか分からない」という教職員をサポート

データの供給により、漢字指導に苦慮する教職員に効果的な学習アイデアを伝えることが可能である。「様々なワークが漢字指導の参考になった」「児童と一緒に漢字の成り立ちを知り、自分自身も勉強になった」という感想を得られた。今後も新しいワークを作成し、多くの教職員をサポートしていきたい。



■ 講評

(津崎 史氏)

学校教育の現場を受け、デジタル端末で楽しく漢字学習ができる仕組みを開発された。すでに現場の教師に受け入れられていて、社会還元という点でも評価できる。ゲーム性があり、子供たちの興味を引く内容だが、漢字を習得し、文脈の中で使用できるという目的を見失わないようにしたい。



旧字体をヒントにした 字形、筆順の指導のあり方

岐阜県 岐阜市立本荘中学校
岸 浩道 氏

中学校現場では、生徒の提出物も急速にデジタル化された。国語の授業でも、生徒は、手書きではなく、活字でレポートを提出するようになった。こうなると、かつて求められた「筆順」や「字形の整え方」などは、その存在意義が疑われるほどである。しかるに、多くの生徒はやはり、教師の板書をはじめ、整った手書き文字にあこがれを持っている。漢字文化は廃れない。時代が進むにつれて、「この子たちに、文字についての正しい知識と技能を身につけさせたい」という願いは強くなるばかりである。

文字を美しく整えるのは、コツや魔法ではなく、やはり知識と技能に違いない。正しく学ぶことで整った文字が書けたとき、生徒は喜びや安心感と共に「文字」そのものを手に入れる。長年の教師生活で見つけたのは、「驚きのある学習ほどよく身につく」という当然の事実である。だからこそ、「漢字の学習に、驚きよ、あれ」と願い、実践を重ねてきた。漢字文化を生徒とともに見つめる営みは、手間のかかるものに違いないが、学習指導要領の枠の中でも実践しうることも証明できた。「学びに向かう力、人間性等」との関連は疑うべくもない。面白く学ばせるのは、同じ文字を何度も書かせるより、ずっと未来志向のものなのである。

○旧字体や字源を素材として新字体をとらえさせれば、漢字への興味が増し、自信を持って漢字を書こうとする生徒が増える。

平成 16 年経済産業省 JIS コード改正

例示字形の変更

- 「辻」も点が二つになった
- 「全体に旧字に接近したの？」
- 「PCの進化が招いたのかな？」
- 「……せっかく覚えたのに」

薩 → 薩
卿 → 卿
鰯 → 鰯
葛 → 葛

当用漢字・常用漢字

- 「子どもには新字体はわかりやすい」
- 「旧字体は古くさいし、ややこしい」
- 「実は、新字体のほうがややこしい」
- 「昔の形は残すの？ 残さないの？」

当 當
灯 燈
庁 廳
転 轉

↑ 令和
↑ 平成
↑ 昭和

平成 29 年学習指導要領

書写の年間指導時数に変化なし

中1 20時間 中2 20時間 中3 10時間

ひたすら書く指導ではなく、文字そのものについての指導が必要。1年生から積み上げれば、書字に親しむ生徒も必ず生まれる。

記号のように漢字を書く子どもたち

- ・筆順にも字形にも無頓着。
- ・字形にオリジナリティーあり。
- ・書ければいい、読めればいい。
- ・そこに不便さは感じていない。

まるもじ
風手登

この実践では、漢字の字形や筆順、あるいは漢字そのものについて、生徒の認識を新たにすることを試みた。この学びが今後、生徒自身の中でさらにふくらみ、文化的な生活につながることを願ってやまない。

※活用した文字は以下の通り

- (1) 竝 (2) 戻 (3) 稲 (4) 児 (5) 専 (6) 博 (7) 衣・展 (8) 衷 (9) 葛

■講評

(津崎 史 氏)

漢字の意味や筆順を学ぶとき、漢字によっては旧字体の方がわかりやすいことに着目。漢字の成り立ちから、漢字同士のつながりを意識させ、漢字学習にたいする意欲を高めた。中学三年生が対象で、授業導入時の10分間、継続的に行ったことも効果的だ。URLは面白く、努力されていることがうかがえる。

白川静漢字教育賞【第10回】



楽しく取り組む漢字学習

～『白川静博士の漢字の世界へ』の活用を通して～

福井県 鯖江市中河小学校
特別支援学級部会

特別支援学級の児童たちに、「漢字の学習に楽しく取り組んでほしい」という願いから実践に取り組んだ。特に、小学校で学習する漢字は約1000字で、その多くを読み書きできれば日常生活に困らないとも言われている。

本学級の児童は、国語の教科書や副教材「漢字ドリル」等に掲載された絵文字・古代文字や、「合体漢字」等の漢字クイズアプリに興味・関心が高い。

そこで、『白川静博士の漢字の世界へ』（福井県教育委員会/編、平凡社刊）（以下「本書」）を用いることで、「漢字」への興味・関心がより高まるのではと考え、実践を試みた。

実践は、国語の教材 3年「へんとつくり」、4年「漢字の組み立て」、5年「漢字の成り立ち」を基本に据えて行った。右図は、光村図書3年教科書に掲載されているものである。この図が、「本書」を用いた学習活動の始まりである。

3年・4年の実践では、「へん」や「つくり」等の部首の由来を調べたり、それらを組み合わせて漢字をつくったりする学習活動の中で「本書」を用いた。例えば、「安」を「本書」で調べることで、「うかんむり」は「屋根の形」であることを知った。さらに、同じ「うかんむり」の「家」について調べると、「屋根の下に生け贄の犬がいる」ということが分かり、児童は驚きとともに、既習の漢字について芋づる式に調べようになった。

また、5年の実践では、「象形文字」「会意文字」等の古代文字を「本書」で調べる活動を行った。「魚」の「あし」の部分は「尾っぽ」、「馬」の上の部分の横画は「たてがみ」を表していることなど、興味をもちながら「本書」を読み進めた。さらに、「象形文字」の古代文字から、その漢字を当てるクイズに意欲的に取り組んだり、児童自らがクイズをつくったりできた。

これらの実践のほか、本学級では『白川静博士の漢字の世界へ』をいつでも手にできる場所に置き、新しい漢字で気になるものがあれば調べられるようにしている。そのため、新しく学習する漢字も、既習の漢字の部分部分を組み合わせる覚えられようになり、漢字学習への興味・関心がわずかながら高まっていると思われる。

今後も、漢字学習に白川文字学を採り入れながら、より豊かな漢字学習を展開できるように実践を継続したい。



■講評

(津崎 史 氏)

特別支援学級の児童を対象に、白川文字学を活用しての漢字教育。華やかな活動ではなくとも、大切な取り組みだと思う。国語の教科書や教材を基盤にしつつ、『白川静博士の漢字の世界へ』を用いて漢字を学習させる熱意と工夫は高く評価できる。このようなやり方は、全国に汎用性があるのではないかと。

【一般の部 講評】(選考委員：津崎 史 氏)

白川静漢字教育賞が設けられて、今回は記念すべき10回目となりました。白川文字学をどのように進めていくのが課題であった時期から、社会教育へと拡がり、児童生徒作品の募集に至るまで発展してきました。その間の多くの方々の方々の努力に敬意を表します。

今回は一般の部に県内外合わせて14点の応募がありました。それぞれに思いのこもった実践報告でしたが、中でも生徒1人1人がタブレット端末を持つ時代になり、そのニーズに合わせた研究や実践が目を見せました。この分野では、今後、更に工夫されたものが出てくるだろうと思います。また、漢字学習に難しさを感じる生徒への地道な取り組みも、新鮮な感動をよびました。以前に受賞された方の再応募もありました。受賞を糧にその活動を継続発展させ、学校や地域に貢献されている姿は素晴らしいことだと思います。今後も更なるご活躍を期待します。

全国にはまだまだ優れた実践が隠れているのではないかと思います。漢字教育賞の存在を広く知らしめ、応募の増えることを願っています。

白川静漢字教育賞【第10回】



漢字川柳部門

(講評：選考委員 齋藤 瑞恵 氏)

「卒」えり正し 旅立ちの朝 桜まう

えりただし たびだちのあさ さくらまう

栃木県 小山市小山城南小学校6年 隈本 香凜さん

<成り立ち>

衣服の襟を重ねて結びとめた形。死者の衣服の襟元を重ね合わせて、死者の霊が死体から出たり、また悪い霊が入り込むことを防いだりする。

講評：「卒」の漢字の成り立ちをうまく川柳に組み込み、新たな世界へ旅立つ様子を美しいワンシーンとして描くことができている作品です。その様子が目に浮かぶようで、身を正している人物のすがすがしい気持ちまで伝わってきます。

「意」神様の 心を音で おしはかる

かみさまの ころろをおとで おしはかる

福井県 福井市安居小学校6年 細川 想真さん

<成り立ち>

神様の祝詞を入れる「口」を置いて祈ると暗闇の中で神様の訪れがあり、かすかな音として神様の答えが示されること

講評：「意」の漢字の成り立ちをよく捉えており、暗闇の中で神様の心を聞こうと、静けさの中、じっと耳を澄ます作者の姿を思い起こさせます。なぜ神様の心を聞きたいのか、その理由や状況など、読み手のイマジネーションを刺激する作品です。

「包」おなかでね 赤ちゃん大事に 包んでる

おなかでね あかちゃんだいじに つつんでる

京都府 立命館小学校5年 山本 拓海さん

<成り立ち>

人の腹の中に胎児がいる形。勺は横から見た人の形。巳は胎児の形で、上部は頭の形。「はらむ(妊娠する)」の意味から「つつむ」「いれる」の意味となる。

※山本拓海さんは「一人百句」という100の漢字について、白川文字学を踏まえたオリジナル漢字成り立ち川柳を制作。「包」はその中の一句。「一人百句」については、自由部門のページに掲載

<成り立ち>参考文献：『白川静博士の漢字の世界へ』(福井県教育委員会/編、平凡社刊)

講評：母親の包み込むような愛情を感じる作品です。また、「一人百句」については、百句、どれをとっても、白川文字学を踏まえたオリジナル川柳になっています。漢字の成り立ちを忠実に捉え、的確な表現により百句作った努力と才能が素晴らしいです。白川文字学に対しての並々ならぬ情熱が伝わる作品といえます。

漢字作文部門



かんじのポーズをとってみた

京都府 京田辺市立田辺小学校1年

水野 孝音さん

ぼくは、かんじのポーズをとってみた。

まず人の形のポーズをした。大はからだをおおきくおおきくひろげた。おにいちゃんの大はぼくの大よりおおきかった。

つぎに、ふたりポーズをした。せなかあわせになった。なるちゃんとせなかあわせになったら、なるちゃんがみえなくなった。なるちゃんのことをしんぱいになった。せなかあわせのかんじはかなしいな。せなかあわせからできたかんじは「北」とした。

かんじのポーズをするのはたのしいな。もっとかんじをべんきょうしたい。

「雨」に見る略字の在り方

埼玉県 埼玉大学教育学部附属中学校1年

福地 悠世さん

雨という字は、雨が部首の字も含め、日常に多く見かけるが、この字をよく注意して見ていると、時々四つの点が二つになった字に気付く。テストで書けば間違いになりそうだが、このような略字は誤字ではないのか。そんな事を考えてみた。

雨は象形文字で雨の降る形だが、古代文字を見てみると点が十二個もついた字も見つけた。まるで土砂降りのような。それに対して三個、四個、六個と古代文字にも揺れがあった。無数の雨粒を表現した結果だ。点の数の揺れは、今に始まったことではなかった。

日本で生活する以上、漢字は毎日のように目にし、使う。だからこそ漢字の利便性はとても重要だ。漢字というのは学ぶ為にあるのではなく、使う為にあるのだ。当たり前のように僕は今までそれに気付かなかった。漢字に対して柔軟で、寛容であること、それを大切に漢字と関わっていききたい。雨という字は、そんなことを僕に感じさせてくれた。

講評：水野さんが自分の体で漢字のポーズを取って、漢字を体感し、漢字の成り立ちや意味を心で感じ取っているところが素晴らしいです。漢字のポーズを取りながら、漢字のおもしろさに気づく作者の素直な 気持ち がストレートに伝わる作品です。

講評：福地さんが「雨」という漢字の変遷を踏まえることを通し、漢字の社会的な本質に言及できている点に感心する作品です。新たな視点で漢字を捉えた上での漢字との関わり方についても述べており、漢字の明るい未来を感じさせてくれます。

白川静漢字教育賞【第10回】



自由部門

(講評: 選考委員 牧田 菊子 氏)

「喜び」



福井県 福井市大東中学校 1年
松間 大喜さん

講評: 松間さんの作品は、古代文字の「喜」が太く丸みのある線で紙いっぱいに書かれ、周りのカラフルな水玉模様と相まって、大きな喜びが表現されています。コロナ禍の行動制限がなくなって社会が活気づいてきたことを喜び、それが続くようお願いが溢れています。

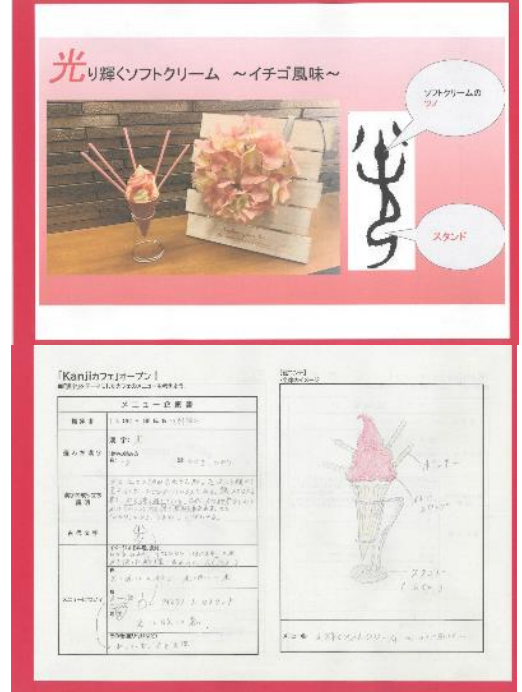
「米粉ドーナツ」



福井県 福井市藤島中学校 1年
政兼 志紀さん

講評: 政兼さんの作品は、「糖」という漢字の意味やイメージを、フルーツやお菓子等を取り入れて表現し、その色合いやデザインが美しく、ぱっと見る人の目を引きまします。明るく、ポップな感じが印象的です。創作に真摯に向き合う作者の姿を感じます。

「光」漢字カフェメニュー



福井県 福井市大東中学校 2年
川村 拓己さん

講評: 川村さんの作品は、火を表すポッキーをいちご風味のソフトクリームに差し、人の形を表す自作のスタンドにそれを立てるなど、字源を踏まえた表現の工夫がきらっと光ります。古代文字の「光」が、カフェメニューとしてとても素敵に表現されています。

「漢字成り立ちアニメ 『漢なり』」(動画作品)



動画はこちらから



福井県 福井県立高志中学校 3年 竹田 壮佑さん

講評: 竹田さんの作品は、見ていて思わずずっと笑ってしまうようなユーモアにあふれたショート動画です。SNSやインターネットとの相性もよく、軽快さが心地よい作品です。漢字の成り立ちについてイメージを膨らませ、楽しく探究していることが伝わってきます。

「たのしい学校 なかよし2年生」



福井県 福井市越廼小学校 2年生の皆さん

講評: 越廼小学校 2年生の皆さんが、楽しみながら充実した学校生活を送っている様子が目に浮かびます。それぞれが選んで書いた文字の個性と自身の個性が連動し、「なりたいひとになれるようがんばります」という思いがよく伝わってきて、明るい未来を感じます。

「一人百句」



京都府 立命館小学校 5年
山本 拓海さん
※漢字川柳部門 優秀賞受賞

■講評 —漢字川柳部門—

(斎藤 瑞恵 氏)

漢字川柳部門には二百二十八点の応募がありました。漢字川柳部門は、漢字の成り立ちに関するものということで、まずは漢字の成り立ちを調べ、そこから想像をふくらませて創作した川柳を応募する部門です。

どの作品も漢字の成り立ちをうまく捉えて、そこからそれぞれが思い描いた世界を五・七・五の十七音に見事に収めつつ、読み手の共感を誘う作品となっていました。漢字の成り立ちと当時の情景、そして現代の私たちの心がつながることで素敵な作品が生まれました。

■講評 —漢字作文部門—

(斎藤 瑞恵 氏)

漢字作文部門には七十九点の応募がありました。漢字作文部門は、漢字にちなんだ四百字までの自由作文を応募する部門です。

今年度は日常の中で触れる漢字について、独自の視点から考えを書いた作文が多く、その発想のおもしろさに感心しました。

今年度より応募対象が小学一年生からとなっており、これから本格的な漢字学習が始まる小学一年生からの応募があったことも大変頼もしく感じました。

■講評 —自由部門—

(牧田 菊子 氏)

自由部門には七百二十一点の応募がありました。自由部門は、白川静博士や漢字をテーマに、自由な発想で創作した作品を、考えたことや工夫した点などの解説を添えて応募する部門です。

今年度は、国語科だけでなく美術科や家庭科など教科横断的に取り組まれた作品も多く、昨年度の3倍以上の応募数でした。多くの小・中学生が、古代文字との出会いをきっかけに、漢字との対話を多様な視点で楽しみ、その世界に浸り、考えたことをアイデア豊かに表現していることに感銘を受けました。



学校賞







※小・中学生の部

福井県福井市 大東中学校 (1校200点以上、第10回応募校中、最多数の応募があった学校に授与)



特別功労賞

白川静漢字教育賞が第10回を迎えることを記念し、設置しました。これまで白川文字学の普及発展に功労のあった5名、1団体を表彰。

 <p>いがらし としゆき 五十嵐 利幸様</p>	<p>福井新聞社編集委員、論説委員を歴任。京都の白川家に何度も足を運び、白川博士と親交を深め、白川博士の福井の現地秘書として絶大な信頼を受け、福井県と白川博士のパイプ役を務めた。立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所、白川静会（東京）との連携や「白川文字学の室」開設に尽力。</p>
 <p>かねこ つみえ 金子 都美絵様</p>	<p>白川静氏に私淑し、古代の漢字世界を描きはじめ、画工として『サイのものがたり』『絵で読む漢字のなりたち』等を出版『白川静文字学に学ぶ 漢字なりたちブック』では、すべての絵と古代文字を描いている。平成26年から現在まで白川文字学の室に「白川静のこぼれ」を提供。</p>
 <p>くぼ ひろゆき 久保 裕之様</p>	<p>立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所において文化事業を担当。白川静博士の「漢字を分かりやすく学んでほしい」という思いを実践するために「漢字探検隊」を立ち上げ、神社や博物館等、様々な場所で実際に見学しながら身近な物と漢字の結びつきを探る講義を実施。「漢字探検隊」をこれまでに全国で200回以上開催。</p>
 <p>まつおか せいごう 松岡 正剛様</p>	<p>白川静博士に関する著書を発行し、全国で発売。自身のサイトにおいても白川博士やその著書について紹介し、またNHKの「知るを楽しむ 私のこだわり人物伝—白川静漢字に遊んだ巨人—」においても全4回に渡り白川博士を紹介。</p>
 <p>白川文字学 ゆうあいかい 遊愛会様</p>	<p>会長である定政成一郎氏を中心に会員数15名で活動。月2回、県立図書館にて白川文字学に関する講座を実施。他にも「漢字遊び」を開催する等、白川文字学を学んだり、楽しんだりする活動を行う。順化小学校等で出前授業を実施。</p>
 <p>きのした ともお 木下 智雄様</p>	<p>白川文字学に関心が高く、白川静会（東京）の活動に参加。白川静漢字教育賞に賛同し、第2回(H26)～第10回(R5)まで、毎回10万円を寄付。</p>

福井県では、本県出身の白川静博士の功績にちなみ、特色ある漢字教育を実践している方や、漢字文化の普及や生涯学習の推進に貢献している方、ならびに漢字に親しむ小・中学生を全国から公募、表彰する「白川静漢字教育賞」を実施しており、今年度、第10回を迎えることができました。今回は12都道府県から1,042点のご応募をいただきました。

令和5年9月、福井県庁にて選考委員会を実施し、受賞作品を選考いたしました。

【選考委員】(敬称略)

- 棚橋 尚子 (奈良教育大学教育学部教授)
- 加藤 徹 (明治大学法学部教授)
- 後藤 文男 (立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所 所長)
- 伊与 登志雄 (福井新聞社 参与・特別編集委員)
- 津崎 史 (白川静博士長女)
- 豊北 欽一 (福井県教育委員会 教育長)
- <小・中学生の部のみ>
- 牧田 菊子 (福井県中学校教育研究会 国語部会長)
- 斎藤 瑞恵 (福井県小学校教育研究会 国語部会長)

第10回白川静漢字教育賞の受賞作品については、「白川文字学」ホームページからもご覧いただけます。



福井県教育庁生涯学習・文化財課
TEL : 0776-20-0559
Mail : syoubun@pref.fukui.lg.jp